



図 2-1 下痢したときのおむつ交換

5 歯みがき

歯みがき中に歩いたり走ったりして転倒する事故が増えています。歯ブラシでのけがの救急搬送は1～2歳児が70%を占めています。歯みがき中は立ち歩かないように注意します。また、感染予防のため歯ブラシが触れ合わない状態での保管が必要です。歯ブラシは使わず、食後のブクブクうがいを奨励しているところもあります。

6 遊び

遊びは子どもの発達をうながす大事な活動です。遊びのなかで育ち、学び、社会性を身につけます。遊びによって子どもは自己実現を繰り返し、成長していきます。やりたいことに向かって、自分で考え、からだと頭を使って集中して遊ぶことができるように、子どもの心身の発達に合った保育計画を立て、環境を整えて、支援していきましょう。

保育保健からみた期待する子ども像

- 心地よくいきいきと幸せを感じる子ども
- 生活リズムが整っている子ども
- 自分から遊べる子ども
- 自分のからだのことがわかる子ども、伝えられる子ども
- 自分と友だちのからだを守る子ども

(全国保育園保健師看護師連絡会)

7 抱っこ・おんぶのしかた

抱っことおんぶは、乳児の移動手段です。抱っこやおんぶをするときにおとなの腕から子どもが落ちて骨折することがあります。職員がお互いに助します(図 2-2)。ひとりのときは、座った姿勢でしっかりと抱っこして動き出します。ひざの屈伸を使うと腰痛予防になります。おんぶは、ひもで固定してから立ち上がりましょう。

緊急時には0歳の子ども3人をひとりで避難させることがあります。1人を背中におんぶして、左右の腕に1人ずつ、3人の子どもを抱えての避難です。避難訓練時には、ほかの職員が応援に来てくれますが、実際には3人を抱えて階段を降りなければならないことがあるかもしれません。抱っこは足もとが見えないので、一步一步安全を確かめて進みます。階段は一段ずつ腰かけながら進むこともあります。おとなの責任が問われる行動です。しっかりと安全を確保します。



図 2-2 おんぶをするときの注意